

# 繁殖成績の改善（分娩間隔の短縮）について

牛群検定加入農家は、乳検成績を飼養・繁殖管理に活用し、自農場の生産性向上、増収益に取り組んでいます。乳検成績は、分娩間隔、初回授精日等の延長より損失乳量が増大することを示し、その原因と対策の必要性を指摘します（表1）。

宮城県牛群検定普及推進協議会では、生産性の損失を抑え、向上させるためには繁殖成績の改善が急務であると考えました。そこで、協議会は、農場ごとの乳検成績から、分娩間隔500日以上加入農場（延べ26戸）を抽出、「50日短縮」を目標として、年2回の巡回指導を実施しました。

表1 牛群検定加入農家の繁殖成績と乳量

	分娩間隔	空胎日数	初回授精	搾乳乳量	補正乳量
	日	日	日	kg	kg
補正乳量上位10農場	452	200	106	33.7	11,758
補正乳量下位10農場	472	228	139	21.9	7,620

2010年4月牛群検定成績から（宮城県畜産試験場調べ）

## 分娩間隔が長い農場の共通点

- (1) 牛の観察が不十分
- (2) 分娩後の明瞭な発情が遅いか、ない
- (3) 泌乳サイクルに合わない飼料給与体系
  - 濃厚飼料多給・粗飼料不足
  - 過肥や削瘦している牛が多い
- (4) 蹄病・飛節腫脹・第四胃変位などが多い

表2 平成21～23年度の改善事例

年度	事例	分娩間隔（日）		
		指導前	指導後	短縮
21	1	514	478	-36
	2	544	489	-55
22	1	509	459	-50
	2	546	495	-51
23	1	553	468	-85
	2	516	464	-52

分娩後の初回発情及び発情回帰時の明瞭で強い発情にするためには、適正な飼養管理が必要です。繁殖成績を左右する要因は複雑で、農場ごとに異なりますが、粗飼料を中心とした基本に忠実な飼養管理にすることが大切です。

巡回した農場では、飼養管理状況を再確認し、以下の基本的な飼養管理に取り組むことによって、牛の状態が良くなり、分娩間隔が改善した事例もありました（表2）。

### (1) 良質で切断長の長い粗飼料の増給

○粗飼料食込みとI補料不足の改善・疾病発生の軽減

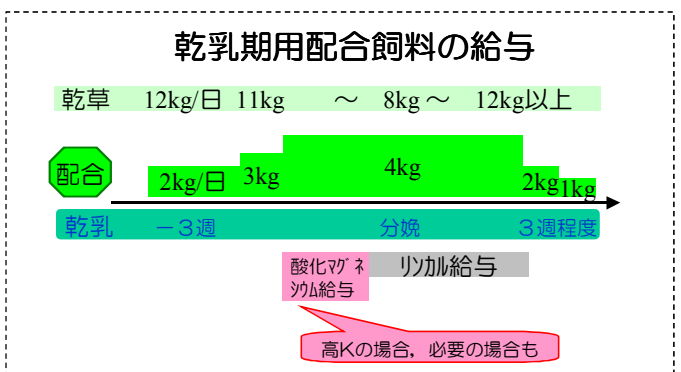
### (2) 食い込ませるための給餌方法

○粗飼料：4～5kg/1回 × 3回程度 = 1日分

○濃厚飼料：3kg以下/1回 × 数回 = 1日分

### (3) 乾乳期用配合飼料の活用

○乾乳期飼養管理対策例：図参照



検定事業の内容をもう一度検討し、加入により経営の安定に活用して下さい。

【宮城県牛群検定普及推進協議会】

みやぎの酪農農業協同組合・宮城県酪農農業協同組合・全国農業協同組合連合会宮城県本部・宮城県ホルスタイン協会・社団法人宮城県畜産協会・宮城県農業共済組合連合会・仙北乳用牛群改良推進組合・大崎石巻乳用牛群改良組合・県南乳用牛群改良組合・宮城県ホルスタイン改良同志会・宮城県家畜人工授精師協会・宮城県

## お問い合わせ先

- 仙北乳用牛群改良推進組合（宮城県畜産協会仙北事業所内：0220-21-1552）
- 大崎石巻乳用牛群改良組合（宮城県畜産協会中央事業所内：0229-34-3304）
- 県南乳用牛群改良組合（宮城県畜産協会仙南事業所内：0224-52-2523）
- 宮城県ホルスタイン協会（宮城県畜産協会内：022-298-9750）

# 分娩間隔を短縮するためのポイント

宮城県牛群検定普及推進協議会



## 1. 観察と記録で、発情の見逃しを少なくしましょう。

- 繁殖管理台帳、管理ボードを活用して、分娩後の初回発情が近い牛を注意、観察することによって、発情を見逃さないように工夫しましょう。
- 牛の観察等にゆとりがない場合や積極的な取組として、「繁殖検診」を活用することも有効。



## 2. 泌乳・乾乳期に関わらず良質粗飼料を食い込ませる。

- 粗飼料不足の牛では、BCSの急激な変動、飛節腫脹、蹄病などの症状を示し、乳質も悪化しますので、乳検成績（特にMUN、FAT、SNF）と併せて、牛をよく観察しましょう。
- 乾乳後期から泌乳期にかけての粗飼料の食い込み量には、充分注意が必要です。  
＝ミネラル等の微量成分やビタミン類が不足すると健康維持、免疫低下等により分娩前後の粗飼料の摂取不足（食いが低下）に陥り、疾病発生率が急増します＝
- 自給飼料の場合、品質にバラツキがありますので、「量は採食しているが、栄養要求量に満たない」場合があります。関係機関で原物や採草地土壌の成分を分析して、充足していない場合には購入粗飼料給与の検討も必要です。  
＝飼料計算は誰が？定期的に計算することと牛の反応を確認し設計者と相談すること＝



## 3. BCSの変動は最小限に（目標：3.00～3.50）

- 乾乳期の過肥は、分娩事故のリスクが高く、初回発情が遅延したり、分娩間隔を延長する要因の一つです。乾乳期用配合飼料等を活用して、粗飼料中心の飼養管理に努めましょう。
- 泌乳初期は、生理的に負のエネルギーバランスで泌乳活動を続けている時期です。体重とBCSは減少しますが、急激な減少は、鈍性発情や卵胞の発育に悪い影響を与えます。減少を抑えるために、粗飼料の食い込みと増乳量にあった濃厚飼料の増飼が必要です（給与回数を増やすことによって増飼する）。